

第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立市岡高等学校
校長名	松永 淳子

開催日時	令和4年2月7日(月)16:00~
開催場所	大阪府立市岡高等学校 2階 校長室
出席者(委員)	深野康久会長、竹川まゆみ委員 書面参加：尾形聡委員、小松茂委員、西村誠委員
出席者(学校)	松永淳子校長、島和広教頭、青木一規首席、河村未来首席、梅田立教諭、 近藤晃弘教諭、田中風菜教諭
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 学校教育自己診断 ・令和3年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和4年度 学校経営計画及び学校評価
議題等	
<p>(1) 学校長あいさつ</p> <p>(2) 確認・報告事項</p> <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「令和3年度 学校教育自己診断」について ② 「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」について ③ 「令和4年度 学校経営計画及び学校評価」について 	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>(2) 確認・報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 について 2022年1月27日より学校内での濃厚接触者判定を学校に一任される。 学年末考査の確実な実施のため、1月末からクラブ活動を原則停止中。 感染拡大及びコロナ不安の増加での欠席者について、chromebook を用いて可能な限りの学習保障を実施中。 ・ 図書館について 文科省の「子供の読書活動優秀実践校」として大阪府から推薦されている。 <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「令和3年度 学校教育自己診断」について <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に引き続き、学校教育自己診断の結果で生徒の肯定的回答率は高く、平均81.4%であった。 ・ 昨年度課題の項目、“担任の先生以外にも相談できる先生がいる”は改善された。 ・ 生徒用、保護者用ともに学習関連の項目について肯定的意見が増加。 	

教員用でも、授業内容の工夫についての項目が増加。

→オンライン学習の教育的効果について、大学ではレポートの増加に伴い、よく取り組む学生が力をつけている一方、この方式についていけない学生の学力が下がっている。市岡高校では長期にわたる休校はなく、欠席者の学習保障以外でのオンライン授業はほとんど行っていないため、その効果や影響は現段階では分かっていない。

・行事関連について、教員用では肯定的意見が増加していることに反して生徒用、保護者用では肯定的意見が減少している。

→COVID-19 感染拡大の影響により、例年通りの行事が縮小や中止となったためだと考えられる。教員の行事実施への思いと裏腹に、生徒は状況を理解してはいるが納得できていないことが見受けられる。

・いじめの対応に関する項目は、生徒・教員ともに肯定的意見が増加。保護者については、今年度追加された項目であるが、肯定的意見が多い。

・令和3年度の学校評価について承認いただいた。

②「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」について

・「グループウェアの平時での活用率」が目標を大きく上回った

→独自のドメインの取得により GoogleClassroom が簡単に活用できるようになっている。chromebook 配布当初は相互作用型授業への戸惑いがあったが、学習保障のための活用例から少しずつ敷居が下がってきている印象がある。

・不登校生徒数の減少

→昨年度の増加は、年度当初4月5月の休校の影響が考えられるが、年度変化の傾向はまだ把握できていない。また、ヤングケアラーの調査について、現段階では支援の必要な生徒は見つかっていないが、回答していない可能性があるため担任を中心として今後も注意深く情報収集を行っていく必要がある。

③「令和4年度 学校経営計画及び学校評価」について

・ユネスコスクールとしての取り組みが COVID-19 感染拡大に伴って縮小している

→防災、人権への取り組みに力を入れる。また、COVID-19 終息後を見通して、学校の特色を出した項目をつくる。

・めざす学校像について

→「COVID-19 の影響から得た教訓を活かし、生命や人と人とのつながりを大切にできる生徒を育てる」という趣旨の内容の追加を検討。